

■令和8年度4月1日着任 副市長・新規採用職員 市長訓示

令和8年度の人事異動に伴う辞令交付式にあたり、ご挨拶を申し上げます。

本日は、近藤議長、井元副議長をはじめ市議会議員各位におかれましては、新年度早々ご多用の中、ご臨席を賜り、小川副市長、新規採用職員に対しまして、ご激励をいただきますこと、心より御礼申し上げます。また、市政運営に対しまして、建設的なご議論とご提言をいただいておりますことに、改めて感謝申し上げます。

さて、このたびの人事異動は、私が市長として初めて迎える新年度の節目であり、本市の将来を見据えた新たな体制のスタートでもあります。本日ここに、それぞれの決意を胸に、新たな持ち場へと向かわれる皆さん、そして平戸市職員として新たな一步を踏み出される新規採用職員の皆さんに対し、心から歓迎と期待の意を表します。

また本日付で、副市長として就任いただく小川雅純様には、長年にわたり長崎県政の中枢において、地域振興や広域交通政策など数々の重要施策に携わってこられた、豊富な経験と卓越した見識をお持ちの方であります。これまで培われた行政手腕と高い志をもって、生まれふるさとでもあります、本市が直面する人口減少、産業振興、地域課題の解決に大きな力を発揮して

いただけるものと確信しております。市政運営の両輪として、私とともに「未来をひらく平戸」の実現に尽力いただくことを期待しております。

そして、新規採用職員の皆さん。皆さんは本日から、平戸市民全体の奉仕者としての使命を担うこととなります。いま胸に抱いている志や初心を、どうか忘れずに持ち続けてください。皆さん一人ひとりの存在が、これからの平戸市の未来を形づくる大切な力であり、かけがえのない財産であります。

現在、私たちを取り巻く社会情勢は大きく変化しています。人口減少や少子高齢化の進行、物価高騰、一次産業の担い手不足、地域交通や医療の課題など、全国同様、本市が抱える課題は複雑かつ深刻です。しかし私は、こうした時代だからこそ、地方自治体の役割はますます重要になると考えています。

その中で求められるのは、「できない理由を並べる行政」ではなく、「どうすればできるかを考え抜く行政」です。前例がないからできないのではなく、前例がないならば、私たち自身がその道を切り拓いていく。その気概こそが、これからの平戸市役所に必要な力であります。

どうか皆さんには、現場の声に真摯に耳を傾け、市民一人ひとりの暮らしに寄り添う姿勢を大切にしていきたいと思えます。市民の皆さまにとって、市役所は最も身近で頼れる存在でなければなりません。その信頼は、一つひとつの対応、一つひとつの積み重ねによって築かれるものです。丁寧

に、誠実に、そして迅速に行動することを常に心がけてください。

また、組織としての力を高めるためには、職員同士の連携と信頼関係が不可欠です。所属や立場の違いを越え、互いに知恵を出し合い、支え合いながら課題解決にあたるのが、より良い行政サービスの提供につながります。皆さんには、「個」としての力を磨くと同時に、「組織の一員」としての自覚を持ち、チームで成果を生み出す意識を大切にしていきたいと思えます。

私は、職員の皆さんを「部下」ではなく、「共に歩む仲間」と考えています。現場で感じた課題や気づき、改善の提案があれば、遠慮なく声を上げてください。その一つひとつが、市政を前に進める原動力となります。そして、挑戦する職員を全力で支え、その努力が正当に評価される組織づくりに取り組んでまいります。

平戸には、豊かな自然、長い歴史、そして何よりも温かい人のつながりがあります。このまちには、まだまだ大きな可能性があります。その可能性を現実のものとし、「住み続けたいまち」「選ばれるまち」へと発展させていくことが、私たちに課せられた使命です。

その使命を果たすために必要なのは、特別な才能ではありません。日々の業務に真摯に向き合い、市民のために何ができるのかを考え続ける姿勢です。一枚の書類、一件の相談、そのすべてが市民の生活に直結しているとい

う自覚と誇りを持って職務にあたってください。

結びに、本日新たなスタートを切られた皆さん一人ひとりの前途が大いに開かれ、平戸市政の発展に大きく寄与されることを心から期待申し上げます。

皆さん、共に力を合わせ、誇りある平戸の未来を築いてまいりましょう。

以上をもちまして、辞令交付にあたっての市長訓示といたします。

どうぞこれからよろしく願いいたします。

令和8年4月1日

平戸市長 松尾 有嗣